

Foley, G. and Timonen, V., 2015, "Using Grounded Theory Method to Capture and Analyze Health Care Experiences," *Health Services Research*, 50(4): 1195-1210.

G. フォーリー&V. ティモネン, 2015, 「ヘルスケア経験を記録・分析するためにグラウンデッド・セオリー法を用いる」

レジュメ作成者による紹介

量的研究の指向をもつ研究者たちに向けて、質的研究法の 1 つであるグラウンデッド・セオリーの方法をどのように実践するか解説したもの。とくにヘルスケアにおける人々の経験を分析するにあたってのグラウンデッド・セオリーの方法の手順とその意義について述べている。

導入 (pp.1195-1196)

- ・ 量的研究の指向をもつ研究者や研究チームの多くは、自らの追い求める問いに答えるために、質的な方法が必要であることに気づくかもしれない。
- ・ 本稿はそのような研究者が、最も多用され確立された質的方法の 1 つであるグラウンデッド・セオリー (GT) の方法を用いて、質的調査とデータ分析を行えるようにすることを目指す。著者たちは研究プロジェクトの各ステップについて、自身の研究や仮説的な事例を参照しながら、実践的なアドバイスを提供する。
- ・ しばしば質的研究法は、優れた量的研究を行う前提条件であるが、量的研究を指向する研究者やチームは、質的研究を志向する厳格な査読者に受け入れられるような質的研究を実施するのに必要なツールキットを欠くことが多い。また、質的データへのアクセスを有していても、その分析のツールを欠くことが多い。
- ・ 本稿の目的は、確立された手法（この場合は GT）に則っていれば、優れた質的研究を実施するという難題は、量的研究者にとって克服できないものではないことを示すことである。

質的研究 (pp.1196-1197)

- ・ 質的研究は、目新しく、十分に理解されていない現象の記述や、因果推論を行ううえで有用。そのため、新しい理論を構築したり、不十分な点が明らかになった理論を調整したりする際に特に役に立つ。
- ・ 質的研究法は、「ここで何が進行しているのか」という意味でのプロセスや、人間行動のパターンを説明する。
 - ヘルスケア領域の研究者にとっては、ヘルスケアにおける実践やパターンがどのように生み出されたかや、その実践が特定の文脈の人びとにとってどのような意味を持つのかを理解する助けとなる。

- ・ 質的研究は、統制されていない、あるいは「自然主義的 (naturalistic)」な状況で行われる (Lincoln and Guba 1985)¹。
- ・ 最もよく使われるデータ収集の方法は、半構造化された詳細なインタビューである。本稿の焦点もインタビューに置かれる。

GT とは何か (pp.1197-1198)

- ・ GT とは、大まかには、質的データから概念を特定し、理論を構築するための体系的な技術と手続きのセットである。より具体的には、行動の心理的・社会的プロセスに関心を寄せ、人びとが類似した文脈や異なる文脈においてどのように・なぜ特定の方法で行動するのかを特定し、説明しようとする。
- ・ GT はまずもって帰納的であり、研究者は質的な理論生成 (theory-generating) のプロセスにおいて現象を説明するために具体的なものから一般的なものへと移行する。
- ・ 演繹とアブダクションは理論を構築する (building theory) 役割を担う。
 - たとえば GT 研究では、初期のデータ収集や既存文献から演繹される分析カテゴリーを採用したり、現象に対するいくつかの可能な説明を探ろうとしたりする。
 - GT のアプローチの特徴は、複数の説明に開かれていることであり、いずれの説明も（自前のデータなしに既存の説明を用いるのではなく）データに基づいて「ゼロから」導出する点である。
- ・ GT はヘルスリサーチにおいて頻繁に用いられる質的方法であり、典型的には理論の構築に焦点を置く。
 - 「たえざる比較 (constant comparison)」と呼ばれるやり方で、データ同士が比較される。
 - データから概念を抽出するだけでなく、概念やカテゴリー (= 変数) 間の関係を明らかにし、実質的な理論を構築する。

GT の研究においていかにサンプリングすべきか (pp.1198-1200)

- ・ GT を採用する研究者は、典型的には研究しているトピックに貴重な洞察を与えられると思われる参加者を意図的に選別する。
- ・ 理想的には、GT の研究では理論的サンプリングを行う。
 - これは、研究にとってレリヴァントな特徴を持つ少人数の人びとへのインタビューから始め、初期のインタビューで得られた情報を基礎にさらに参加者を選ぶやり方。
 - 参加者の募集に問題を抱えるような場合は、研究者と関係が近い参加者を選ぶ便宜的なサンプリングに頼る場合もある。

¹ Lincoln, Y. S. and Guba, E. G., 1985, *Naturalistic Inquiry*, Newbury Park, CA: Sage. この著作およびここでの「自然主義的」の意味合いについては、社会政策/社会福祉②の第1回のレビューを参照されたい。

- いずれにしろ、GT におけるサンプリングは、（母集団を代表するサンプルを得るためではなく）ある現象を説明する理論にとってレリヴァントな側面を明らかにするためにつねに設計されるべきである。
- GT の研究を開始する時点で、サンプリングされる研究参加者の正確な数を知ることはできない。なぜなら、理論的サンプリングは、データ分析で見出した概念やカテゴリー（=変数）、およびこれらのカテゴリーを精緻化して理論を発展させる必要性に主導されて行われるからである。
- GT の研究では、カテゴリーが十分に記述され、多面的に示された（dimensionalized）時点でサンプリングを中止する。これは、データの「飽和」と呼ばれる。
 - 「飽和」は、収集・分析されたデータの量に依存するのではなく、新しく重要な洞察が得られなくなった場合に生じる。

GT の研究においていかにデータを収集すべきか（pp.1200-1202）

- インタビューの方法に焦点を当てると、GT の研究におけるインタビューは、非構造化あるいは半構造化²の形式で行われる。
 - 非構造化インタビューは、十分に理解されていないトピックに着手する調査や、ある現象の基本的なパラメーターを抽出することを企図した調査に適している。
 - ヘルスケア研究における多くの GT の研究は、半構造化のインタビューを採用する。
- 他の質的方法と同様、フィールドノートの注意深い編集が GT の研究においては重要。
 - GT の研究におけるフィールドノートには、初期の分析的なノートが含まれるが、基本的にはインタビューの状況を記述し、観察を記録するものである。
 - フィールドノートは、調査者の記憶を呼び起こしたり、調査を実行していない分析者がインタビューを文脈化したりするのに役立つ。

GT の研究においていかにデータを分析すべきか（pp.1202-1204）

- ここでは、GT において確立されたコーディングの手順に沿って説明する³。
- 「オープン」コーディング：
 - データを生データのセグメントを表す個々の部分に分解する。セグメントは、単語、フレーズ、データの大きな塊で構成され、これらを概念的な見出しのもとに抽象化する（例：あのセグメントは参加者がクリニックの医師を信頼していることに関するもの。→「クリニックの医師を信頼する」とコーディング）。

² ここでの非構造化インタビューとは、何を質問として尋ねるかをインタビューに先立って決定していない形式のインタビューを指す。半構造化インタビューとは、インタビューを体系立てる目的から、いくつかの自由に回答できる質問をすべての対象者に対して尋ねる形式のインタビューである。

³ ここでは次の著作にしたがってコーディングの手順が説明されている。Corbin, J. and A. Strauss, 2008, *Basics of Qualitative Research: Techniques and Procedures for Developing Grounded Theory*, 3rd Edition. London: SAGE.

- 概念を新しいデータと絶えず比較しながら、データの類似性や相違性をコード化し、新しい概念を導出する（例：後続の参加者がクリニックの医療従事者を信頼していることを明かす。→「クリニックを信頼している」とラベルをはる）。
- ・ 「軸足」コーディング（“axial” coding）：
 - 新たなカテゴリー間の関係や、文脈の違いが参加者の経験をどのように形成するかについての暫定的な命題を立てる。
 - 著者たちの研究では、コーディングの間に再帰的・理論的メモ（＝分析の記録）を作成した。メモ書き（memoing）は GT の方法の重要な構成要素である。著者たちの場合、筆頭著者がデータに関する方法論的な洞察と理論的な比較とを記録し、それがサンプリングと理論構築の指針となった（例：「家族の文脈における意思決定」という初期のメモにおいて、異なる家族の文脈が参加者のケアに関する意思決定にどのような影響を与えるかを比較し、利用できる家族のサポートの度合いが異なる参加者をサンプリング）。
- ・ 「選択的」コーディング：
 - それまでの作業で得られたカテゴリーをもとに、他のカテゴリーを包含する、あるいは説明においてより重要性が高い中核的なカテゴリーを特定すること。カテゴリー間の関係が実質的な理論を構成する。
 - 著者たちの研究では、この段階で、データに関する理論構築のメモを追加的に作成する形で、理論メモから得られた知見を拡張した（例：患者がどのように・なぜ医療サービスを受けるのかを説明するカテゴリーを統合する中核的カテゴリーとしての「喪失」の浮上）。
- ・ GT の研究者は通常、データ分析の補助として、メモと同時にダイアグラムを用いる。
 - 図を作成・改良する目的は、実質的な理論を図式化し、概念やカテゴリー間の関係を説明することにある。

データ分析のみに GT を適用することは可能か（p.1204）

- ・ 理想的には、GT は研究プロセス全体を通して適用されるが、データが収集された後に、GT のコーディングの手順を使用することも可能。
- ・ データ分析のみに GT の方法を適用する場合も、フィールドノートやメモ、ダイアグラムを用いることは、研究における中心的な方法論的構成要素である。

GT の研究においてソフトウェアを用いる必要はあるか（pp.1204-1205）

- ・ CAQDAS（Computer Assisted Qualitative Data Analysis Software）は、GT の研究のための必須のツールではない。
 - 質的研究は解釈的なものであり、データはあくまで人間によって概念化される。

いかなる規準によって GT の研究を評価すべきか（pp.1205-1206）

- ・ 質的研究で使われる「妥当性」や「信頼性」という用語は、量的研究の場合とはその意味合いが以下のようにいくぶん異なる。
 - 「妥当性が高い」とは、研究で使われている道具・計器（instrument）にくわえて、研究における手続きが、調査している現象に実際に接近できることを意味する。
 - 「信頼性が高い」とは、他の研究者が原則として、同じ方法と手続きを用いて同様の結果を得ることができることを意味する。
- ・ GT の研究は（他の質的研究と同様に）知見の「信憑性（credibility）」と「信用性（trustworthiness）」に基づいても判断されるべきである⁴。
 - これは、ある知見が参加者の経験や研究における研究者の役割を正確に説明している程度のことを指す。
 - このうち、知見の信憑性は、研究者が行った方法論的ステップを文書化したもの（データをどのように分析し、どのように理論を構築したかの説明）によっても判断される。GT の研究者は、自らの研究デザインを他の研究者が異なる文脈で再現できるように、すべてのステップを詳細に説明する必要がある。
- ・ より具体的には、GT の研究の質は、データがどれだけ文脈化され、文脈や意味の変化に対して「飽和」しているかによって判断されるべき。
 - 文脈化され「飽和」したデータとは、研究している現象の複雑さをデータが捉えていることを意味し、したがって実践の場に適用できる（すなわちレリヴァントである）見込みがある。
- ・ データに対する「感受性（sensitivity）」も GT の研究においては重要である。
 - 感受性とは、意味を含んだデータに研究者がどれほど理解を示しているかを指す。
- ・ 研究者がいつどのように分析を検証する（verify）かという点については、GT の内部でも違いがある。
 - 参加者のところに戻り、コード、カテゴリー、開発中の理論の正確さを検証することを選択する者もいる。

GT の研究における知見をどのように報告するか（p.1207）

- ・ 研究方法のセクションでは、研究者が研究プロセスにどのような影響を与えたか（＝研究者の再帰的役割）についても説明する必要がある。

結論（p.1207）

- ・ GT は、ヘルスケアの経験を理解するための価値ある研究方法である。

⁴ これらの規準およびその訳語については、Lincoln, Y. S. and Guba, E. G., 1985, *Naturalistic Inquiry*, Beverly Hills, California: Sage Publications の第 11 章、およびそれをまとめた社会政策／社会福祉②の第 3 回のレジュメも参照。ただし、今回とりあげた論文における credibility や trustworthiness という語の用法は、Lincoln と Guba の著作における用法とはやや異なっている。

- ・ GT は、ヘルスケア経験のバリエーションを特定し説明することができる。
- ・ GT は、厳密で信憑性が高いだけでなく、「実行可能」かつ実用主義的である。
- ・ GT の帰納的な性質は、参加者の視点からヘルスケアの重要なプロセスを理解するのに適している。